

各 位

日本農産工業株式会社

2014 年 4～6 月期の畜産配合飼料価格について

畜産配合飼料価格改定額

弊社は 2014 年 4～6 月期の畜産配合飼料価格につきまして以下の飼料原料情勢等に基づき、2014 年 1～3 月期に比較して全国全畜種総平均トン当たり約 1,700 円値上げすることを決定致しました。なお、改定額は地域別・畜種用途別・銘柄別に異なります。

飼料原料・外国為替情勢について

1. 主原料（飼料穀物）

シカゴ定期とうもろこし相場は、年明け以降しばらくは 4 ドル台前半（ブッシェル当たり）で取引されていましたが、その後は堅調な輸出需要や南米の天候不順を背景として上昇傾向となり、現在は 4 ドル台後半で取引されています。

本年の米国産とうもろこしの作付面積については、昨年以下の水準となる可能性が強まっており、今後しばらく相場は堅調に推移するものと見込まれます。

2. 副原料（植物蛋白原料）

シカゴ定期大豆粕相場は、年明けこそ南米の生産が順調に推移したことから下落基調で推移していましたが、その後は中国向けを中心とした米国産大豆の輸出需要の高まりで需給が逼迫した影響を受けて急激な上昇に転じており、今後も高値で推移するものと見込まれます。

3. 海上運賃

米国ガルフ／日本間パナマックス本船の運賃は、おおむねトン当たり 50 ドル台半ばでの取引となっています。年明け以降大型ばら積み船の需給は落ち着いていますが、穀物の輸出が米国産に集中しており、運賃は底堅く推移しています。

4. 外国為替

今年のドル／円相場は、米国の量的緩和政策の縮小決定が米国景気回復を裏付けるものとして捉えられ、円を売って株式やリスク資産を買う流れが強まったことから、1 ドル=105 円台と 5 年ぶりのドル高円安水準で始まりました。

その後は中国の経済指標の悪化や新興国通貨の急落によって、円を買う動きが強まり、1 ドル=102 円付近での取引が続いています。